



Manifesto
Awards



マニフェストを読んで選挙に行こう。

マニフェスト大賞 応募お役立ち情報

2024年6月

第19回マニフェスト大賞実行委員会

マニフェスト大賞とは？

6/1、応募スタート! (7/31まで)

首長/議会/議員/市民団体
自治体職員/NPO/学校/企業等
どなたでも応募可能!

応募期間
2024.6.1~7.31

マニフェスト大賞とは

マニフェスト大賞は、地方自治体の議会、首長、市民等による、地域の民主主義向上に資する優れた取り組みを募集し、表彰するものです。これにより、地域で努力を重ねる方々に栄誉を与え、さらなる意欲向上を期するとともに、優れた取り組みが広く知られ互いに競いあうようにまちづくりを進める「善政競争」の輪を拡げることがを目的としています。政策本位の政治、生活者起点の政策を推進するために、ご注目頂くとともに、奮ってのご応募をお待ちしています。



審査委員長
北川 正恭

今年は応募開始・締め切りが1ヶ月早まっています！

Manifesto Awards

今年のマニフェスト大賞は
応募期間が変わります

※昨年までは7月1日～8月31日

エントリー開始 エントリー締切 1ヶ月前倒し

6月1日^土～7月31日^水



マニフェスト大賞2024

検索

<http://www.local-manifesto.jp/manifestoaward/> ▶ 最新情報は随時ウェブサイトでお知らせします。

募集要項・エントリーから表彰まで

部門紹介

審査部門
ローカル・マニフェスト部門 (首長／議員・会派)
シティズンシップ部門
議会改革部門
政策・まちづくり部門
特別賞
特別審査委員賞 (箭内道彦選／秋吉久美子選)
NEW インターネット投票特別賞

各部門概要、審査基準などの詳細はホームページをご確認ください。
首長、議会、議員に限らず、どなたでも応募できます。具体的には、市民団体、NPO、自治体職員、教育機関、民間企業、メディアなど、善政競争につながる活動や取組はすべて対象となります。なお、応募内容により応募部門とは異なる部門で表彰される場合もあります。

エントリーから表彰までの流れ



前回（第18回） 各部門最優秀賞の顔ぶれ

前回の 受賞者の声

（抜粋）

受賞事例の内容は
マニフェスト大賞HPを
ご覧ください



豊川市長 竹本 幸夫
（愛知県豊川市）

もっと元気なまちをめざして！

今回の受賞は、市民や市議会による市政運営に対するご協力の賜物であると受け止めています。引き続き、もっと元気なまちの実現をめざし、自己評価と情報発信を行いながら、マニフェストの取組を全力で進めます。



よこはま自民党
（自由民主党横浜市支部連合会・自由民主党横浜市議員団）
（神奈川県横浜市）

私達は市民との約束を実現します

2年連続の最優秀賞受賞に感謝します。『子どもたちの未来へのコミットメント』として策定した私達のマニフェストで冒頭に掲げた『横浜市子ども・子育て基本条例』が、議員提案条例としてまもなく成立する予定です。



こども選挙実行委員会
（神奈川県茅ヶ崎市）

こども選挙が全国に拡大中！

最優秀賞を頂き、新聞社からの取材など社会的にも大きな反響があり、自分のまちでも「こども選挙」をやりたいと多くの方から問い合わせを頂きました。こどもと一緒に社会を変える活動が全国に拡大しています。



三重県議会
（三重県）

進化し続ける議会活動計画

受賞後や計画に基づく各種取組を進める中で、県民の方々や他議会等からエールをいただきました。広聴広報や他議会との交流・連携等での新たな取組も含めてしっかり検証し、議会活動の一層の充実を図ってまいります。



大崎町
（鹿児島県大崎町）

SDGsを柱とするまちづくりへ

リサイクルを起点としたまちづくりに評価を頂き心から嬉しく思います。受賞を機に住民皆様や多くの方々にお声がけ頂き反響の大きさを実感しています。今後ともSDGsを通じて持続可能なまちをめざしてまいります。



医療法人社団しろひげファミリー
（東京都江戸川区）

診療所が手掛けるひきこもり対策

受賞を機に行政の視察が増え、ひきこもり支援の問題の深刻さを感じています。私たちは「江戸川区駐菓子屋居場所よりみち屋」の就労体験や居場所を通じ、ひきこもり状態の方が社会と繋がるきっかけを提供してまいります。



寄居町議会
（埼玉県寄居町）

目指すは「住民自治の窓口」

編集方針を「読まれない議会だよりは出す意味なし！」と掲げ切磋琢磨してきた取組が評価をいただき、議員自ら足を運ぶ「町民取材」にも拍車がかかりました。さらに「住民自治の窓口」の機能を果たしていきます。

マニフェスト大賞と私

江東区議会議員 鈴木綾子 マニフェスト大賞受賞歴（個人受賞）

【個人受賞】

第8回(2013)：ネット選挙・コミュニケーション戦略賞/審査員特別賞（個人受賞）
「政策実現のためのコミュニケーション戦略」
～ICTとリアルな対話の融合～

第16回(2021)：優秀コミュニケーション戦略賞
「SNSガイドライン」

2011年、一期目から毎年自分の取り組みを棚卸して応募し続けていました。

マニフェスト大賞の受賞により、
「切磋琢磨する議員仲間との交流機会が増えた」
「議員活動のモチベーションアップ」
「優秀な取り組みをTTPすることで、活動の質の向上」



受賞した取り組み：第8回（2013） 政策実現のためのコミュニケーション戦略 「ICTとリアルな対話の融合」



取り組み概要

インターネット選挙の解禁により、議員のホームページ、SNSなどのICTによる情報発信は標準装備となりつつあります。地方議員として住民の声を聴き、政策実現につなげるためには、ICTを「選挙のための情報発信手段」ではなく、「政策提言につながる双方向のコミュニケーション手段」ととらえて、戦略的に活用することが必要です。

そこで、ホームページ・SNSなどのICTツールの活用と、紙面による広報に加え、区政報告会（「あやこCafe」）・ワークショップなどのリアルなコミュニケーションを連携させ、以下のような「政策実現のためのコミュニケーション戦略」を実践しています。

1. ホームページ・SNSで議員活動が見える化
2. 視察報告書のネット公開&区政報告会での活用
3. 新しい政策提言の手法～クラウドソーシングでアイデア募集～
4. 政策提言型・SNS連動型の区政報告会「あやこCafe」
5. ワークショップを活用した待機児童問題への取り組み
6. ビジュアルにこだわった「区議会レポート」「アニュアルレポート（年間活動報告書）」

受賞した取り組み（第16回：2021年）優秀コミュニケーション戦略賞

「SNSガイドラインを活用した安心安全なコミュニケーションの実現」

優秀賞



江東区議会議員 鈴木 綾子（東京都江東区）

SNSによる情報発信は地方議員においても広く行われているが、誹謗中傷対策は喫緊の課題。鈴木議員は2019年に、誹謗中傷の発生を防ぐため地方議員では初めてとなる「SNSガイドライン」を策定した。策定にあたってはSNS活用の専門家・弁護士などとも相談。免責事項や利用者による書き込みの削除などについて具体的に記述し、悪質な場合は「インターネット事業者、警察への通報や法的措置を行う場合もある」と明記している。同ガイドラインはSNSを安心して運用する助けとなっている。議員からの問い合わせや、地方議員勉強会での講演・個別相談対応によるガイドライン普及活動などを通じて、ガイドラインを策定する議員が増加。事例の水平展開が進んでいることも特筆される。

マニフェスト大賞を受賞してよかったこと

マニフェスト大賞の受賞により、

「切磋琢磨する議員仲間との交流機会が増えた」

「議員活動のモチベーションアップ」

「優秀な取り組みをTTPすることで、活動の質の向上」

日頃の議員活動・議会・会派の活動の棚卸に
マニフェスト大賞を活用することがおすすめ！

よくある質問
どんな取り組みを応募すればよいの？

という皆様に、
お役立ち情報をお伝えします！



受賞事例の傾向と今年のオススメ

- マニフェスト大賞は、ご自身や所属している議会、行政機関、団体などで取り組んでいる事例の中で、「これは多くの方に広めたい！」と思われるものをご応募頂くことがおすすめ。
- 長年の活動の蓄積により、マニフェストサイクルを回し、政策実現に繋げている事例は、応募主体を問わず、評価される傾向。
- 議員、議会、行政、市民活動などに共通し、「DX/デジタル化」に関するご応募や受賞事例が増えている。
- 2023年については、「こども」（こどもの選挙）や「ルールメイキング」「議会としてのシティズンシップ」（小学校への出前授業）など、「子供関係」の取り組みも注目された。

長年の蓄積により、マニフェストサイクルを回し、政策実現につなげている事例

最優秀賞



よこはま自民党（自由民主党横浜市支部連合会・自由民主党横浜市会議員団）（神奈川県横浜市）

タイトル：「『責任と約束 『こどもたちの未来』へのコミットメント』横浜市民とともに創るマニフェスト」

審査委員講評：4回目のローカルマニフェスト「責任と約束」を作成し、選挙に臨んだ候補者36人のうち35人が当選。まずマニフェストの作成を継続し、かつ、毎回進化していることが特筆される。今回は『「こどもたちの未来」へのコミットメント』というサブタイトルを付け、小説仕立ての未来図を示し、そこから今取り組むべき政策を考える「SFプロトタイピング」という手法を採用した。高校生～30代までの社会人計12人に未来の横浜を描いてもらい市内在住のノンフィクション作家が監修。グラフィックな出来栄で、若い世代に訴求力のあるマニフェストになったのではないかと。Decidimを独自に応用した「横浜みらい創成プラットフォーム」、外部評価も特徴的だ。

首長・議会・会派など応募主体を問わず、マニフェスト大賞の受賞が多い事例

マニフェスト大賞 受賞作品のトレンド① 【DX】

【受賞事例】

- 横須賀市→Chat GPT
- 都城市→マイナンバー
- 美咲町議会→ICT技術活用の議会情報発信
- 開成町議会→動画での情報発信



受賞事例（第18回：2023年）

受賞者名 CHAT-GPT（横須賀市）

優秀賞



横須賀市経営企画部デジタル・ガバメント推進室（神奈川県横須賀市）

タイトル：「自治体初ChatGPTの全庁的な活用について～最新のテクノロジーに積極的にトライして、知見を共有していく～」

審査委員講評：横須賀市役所は、2023年4月からChatGPTの全庁的な活用実証を始めた。自治体職員専用チャットツール「LoGo チャット」を用いて、全職員が、文章作成、要約、誤字脱字のチェック、アイデア創出などについてChatGPTを活用できるようにした。

セキュリティ面では、ChatGPTへの入力情報が二次利用されない方式を組み込んでいる。また、機密性の高い情報や個人情報には取り扱わないように運用を徹底している。

今後、人口減少に伴って自治体職員が大幅に減少していくことも考えられる。最新のテクノロジーに積極的に挑戦をして、行政の業務負担を大幅に軽減できることを期待したい。また、取り組みの中で蓄積した知見を、積極的に他自治体と共有を図っている姿勢も高く評価できる。

受賞事例 (第18回：2023年)
受賞者名 開成町議会 (神奈川県開成町)

「多岐にわたる議会の取組」

開成町議会 (神奈川県開成町)

タイトル：「「議長マニフェスト」 市民への約束 ～不断の議会改革に対する決意～」

審査委員講評：応募のタイトルは「2年間の日本一多岐にわたる議会の取組～チーム議会・議会事務局力～」である。議員と議会事務局との連携による議会改革である。少ない議会事務局職員（3人、監査委員事務局兼務）の奮闘が理解できる。

「多岐にわたる」実践である。その中で特筆すべき実践は、「読む」ウェブサイトから「見る」ウェブサイトとしていることである。議員の自己紹介をはじめ、さまざまな動画の配信がある。一般質問の予告動画（20秒）、本番の録画配信、一般質問終了直後の突撃インタビュー（20秒）といった質問の過程がわかる情報を発信している。また、各常任委員会、議会運営委員会の紹介、委員会開催後の委員会内容についての委員長説明を動画で公開している。

優秀賞



マニフェスト大賞 受賞作品のトレンド② 【子供関係】

子供関係

- ・カタリバ「ルールメイキング」
- ・こども選挙（こどもの投票）
- ・山鹿市議会：議会としてのシティズンシップ
（小学校への出前授業）



受賞事例（第18回：2023年） 「みんなのルールメイキング」（カタリバ）

優秀賞



認定特定非営利活動法人カタリバ（東京都杉並区）

タイトル：「新たなシティズンシップ教育への挑戦！生徒が主体となり、学校の校則・ルールを見直す『みんなのルールメイキング』」

審査委員講評：生徒が主体となり、学校の校則・ルールを見直す「みんなのルールメイキング」プロジェクトを推進。無料相談や講師派遣などにより、全国250校以上に取組が広がっている。生徒にとって最も身近な「社会」である学校の校則・ルールを題材とすることで、当事者意識を持ちやすく、課題解決意識を高めやすい面があるといえる。自分たちの意見によって実際にルールが変わるという体験、さらには自分たちでつくったルールを自分たちで守るという体験は、自己効用感と自治意識を体感的に学ぶ格好のシティズンシップ教育の教材といえる。実施校における生徒・学校への効果に関する定量的・定性的調査を実施し、さらなる改善に取り組みつつ、地域での連携・協働も進んでおり、一層の広がりが期待される。

受賞事例（第18回：2023年） 「こども選挙」（自治体名）

■ローカル・マニフェスト大賞<市民・団体の部>

最優秀賞



こども選挙実行委員会（神奈川県茅ヶ崎市）

タイトル：「こども選挙」

審査委員講評：

茅ヶ崎市長選挙と同時に、実際の候補者にこどもが投票する模擬選挙を実施。こども選挙委員による勉強会・ワークショップを開催して候補者への質問を考え、インタビュー動画をWebで公開。選挙当日は市内11カ所に本物の投票箱を設置し、オンラインでの投票も実施した。さらに359人の「こどもの声」を候補者に届けた。参加した子どもたちの主権者意識の醸成のみならず、ボランティアとして関わる大人の意識改革の効果も期待できる。一連の取組・実績をわかりやすいレポートにまとめ、埼玉、鳥取、讃岐など全国にも広がりを見せている。実際の選挙を取り上げることが学校教育の現場ではタブー視されがちである中、地域での取組で風穴を開けた功績は大きく、今後のさらなる広がり期待が膨らむ。

まずは、**活動の棚卸し**がオススメ

例えば…

■ **議員の場合**

選挙ごとに行っていた「取り組みや実績のまとめ」を1年単位で。

→議会質問・政策実現チェック

■ **市民・団体などの場合**

これまでの活動内容・総会などで報告している実績を参考に振り返り

■ **共通**

チラシやホームページ、SNSや動画、報告会・イベントを応募

オススメ事例① ～SNS・動画などの活用～

- (1) SNS・ブログ・動画などの情報発信事例
- (2) オンライン報告会や意見交換
- (3) 市民主体での情報発信や地方議会を身近にする発信など

議員個人、議会、勉強会などのグループなど、
が関係した取り組み

→議会質問や行政などの提言に結びついた場合は政策も。

オススメ事例② ～デジタル化・DXなどを活用した取り組み～

- ・ デジタルツール・DXなどを活用した取り組みや政策提言
- ・ 情報発信の手法にメタバースなどを使ったもの
- ・ AIなどのツールを使った課題解決や政策提言など

新しい取り組みとして、2022年は受賞事例が複数ある。

オススメ事例③ ～選挙啓発や政策提案の取り組み～

市民団体や学生団体など

選挙の投票率向上に向けた取り組みや、シティズンシップ推進の取り組み、また公開討論会などによる候補者への政策提案やマニフェストの検証など

→活動にいたるきっかけや背景、取り組みの成果など

マニフェスト大賞の応募はホームページから！



Manifesto
Awards

ENHANCED BY Google



TOP

マニフェスト大賞とは

受賞者の声

応募する

審査・各賞

受賞結果

お問い合わせ

[TOP](#) > [応募する](#) > [マニフェスト大賞応募](#)

応募する

[マニフェスト大賞](#)

[よくある質問](#)

マニフェスト大賞応募

第19回マニフェスト大賞の応募期間は、**2024年6月1日から7月31日まで**です。

応募する部門を選択し、応募フォームよりエントリーしてください。

なお、入力後確認画面が表示されますので、必ず入力内容を確認してから送信を完了してください。確認メールが自動送付されますので必ず確認してください。

▼ 応募する部門を選択してください

- > [ローカル・マニフェスト部門](#) に応募する
- > [シティズンシップ部門](#) に応募する
- > [議会改革部門](#) に応募する
- > [政策・まちづくり部門](#) に応募する

マニフェスト大賞実行委員・事務局などにご相談ください！

マニフェスト大賞応募 「下書き用紙」もご用意しています！

2024年■月■日

第19回マニフェスト大賞 応募フォーム 下書き用紙

作成者：■

応募前に「[各賞概要・対象および審査基準](#)」をご確認くださいませようお願いします。

応募部門名 ※必須

- ローカル・マニフェスト部門 (首長 / 議員・会派)
 シティズンシップ部門
 議会改革部門 (躍進賞 重複エントリー希望)
 政策・まちづくり部門

※ どの部門に該当するか分からない場合は、事務局までご相談ください。

※ 審査委員会の判断により応募部門とは異なる部門で授賞する場合があります。

応募区分 ※必須

議会、委員会、議長、会派、議員、議会議務局、議員連盟、政党支部、地域政党、首長、地方自治体、教育委員会、選挙管理委員会、市民、市民団体、企業、非営利団体、報道機関、その他

インターネット投票特別賞へのエントリー ※必須

- インターネット投票特別賞にエントリーする (応募情報が公開されます)
 インターネット投票特別賞にエントリーしない

※ インターネット投票に際し、下記に入力される「応募団体・個人名」、「自治体名(都道府県・市区町村名)」、「応募タイトル」、「取り組み要旨」、「応募内容本文」、「参考URL」がウェブサイト上に掲載されます。

※ 添付資料は公開されません。

※ 個人情報・著作権・肖像権等の取り扱いに十分ご注意ください。

応募回数

はじめて(1回目) 2~3回目 4~5回目 6回以上 わからない

※ 今回の応募区分での応募回数をわかる範囲で記入してください

応募団体名・応募個人名 ※必須

都道府県名 ※必須

自治体名 ※必須

応募担当者名 ※必須

電話番号 ※必須

メールアドレス ※必須

応募タイトル ※必須 (最大50文字)

取り組み要旨 ※必須 (200字程度)

取り組みの要旨を200字程度で記入してください。取り組みの内容・詳細は次の項目「応募内容本文」に記入してください。

応募内容本文 ※必須 (1200字程度)

[審査項目](#)を参考にして、取り組みのきっかけや特に力を入れた点、特徴やアピールポイントなど応募内容を1200字程度でまとめてください。

参考URL1 ※必須

参考URL2

「マニフェスト大賞応募」のページにて「下書き用紙」がダウンロードできます！

審査基準を活用してください！

部門概要と審査基準を公表しています。審査委員はこの基準で審査していきます。

基準に沿って項目に分けてエントリー本文を記載してもOK！

一つの文章でなくてもOKです。

同じ取り組み内容で複数の部門にエントリーにする場合は、アピールポイントを変えてみてください。

政策・まちづくり部門

例

議員、首長、市民、メディア、民間などあらゆる主体が対象。課題を的確に捉え持続可能な地域を築くため、解決に向けた成果を生み出している優れた取り組みや、新規性や独創性にとんだ優れた取り組みを表彰します。評価にあたっては、既存の枠組みや国の支援に依存するのではなく、地域が主体的、前向きに取り組む姿勢を重視します。

対象	すべて
授賞	最優秀賞：1 優秀賞：複数

審査基準

共通基準	① 地方の分権自立の流れや社会状況に対応した生活者起点の取り組みになっている
共通基準	② 地域の将来を描いたビジョンが掲げられている
共通基準	③ 世の中に広く紹介したい取り組みになっている
共通基準	④ 取り組みの過程において、市民など様々な立場の人々が参画している
共通基準	⑤ 審査委員独自の視点による加点

① ローカル・マニフェスト部門

分権自立、生活者起点の視点で作成された優れたローカル・マニフェストを表彰する。マニフェストそのものの出来栄に加え、ローカル・マニフェストに基づいた活動、ローカル・マニフェストの検証・改善を繰り返すマニフェストサイクルの促進などを評価する。

対 象	首長、議員・会派
授 賞	最優秀賞：2（首長1、議員・会派1）優秀賞：複数

（審査基準）

共 通	① 地方の分権自立の流れや社会状況に対応した生活者起点の取り組みになっている
共 通	② 課題設定が明確で、取り組む優先順位が明らかになっている
共 通	③ 審査委員独自の視点による加点

首 長	④ 社会状況の変化に対応した事後検証可能なローカル・マニフェストを作成し、達成状況についての検証を行っている
首 長	⑤ ローカル・マニフェストにマネジメントの視点（財政、組織・人材、リスク）があり、実行している

議員・会派	④ 住民代表としての議員（および会派）が、実行可能で具体的な目標達成に向けた戦略（ローカル・マニフェスト）を策定している
議員・会派	⑤ 広聴・広報の観点で市民とのコミュニケーション・情報共有の仕方を工夫している

② シティズンシップ部門

投票啓発を含むシティズンシップ推進に関する取り組み、こども・若者の意見創出、意見反映、市民マニフェストなどの取り組みを表彰する。

対 象	すべて
授 賞	最優秀賞：1 優秀賞：複数

(審査基準)

共 通	① 地方の分権自立の流れや社会状況に対応した生活者起点の取り組みになっている
共 通	② 見せ方や情報共有に工夫が見られ、世の中に広く紹介したい取り組みになっている
共 通	③ 新しいアイデアで創造性にあふれたものになっている
共 通	④ 多様な協働、連携がなされている
共 通	⑤ 審査委員独自の視点による加点

③ 議会改革部門

議会、議会事務局またはその双方による、住民福祉の向上に寄与するための取り組み、議会の機能充実の取り組み、市民の参画や政策形成サイクルを議会運営上のシステムとして確立している取り組みなどを表彰する。

対 象	議会（議長、委員会、事務局等可）
授 賞	最優秀賞：1 優秀賞：複数 躍進賞：複数

（審査基準）

共 通	① 地方の分権自立の流れや社会状況に対応した生活者起点の取り組みになっている
共 通	② 審査委員独自の視点による加点
共 通	③ 議会改革の成果として課題の解決に至っている
共 通	④ 市民の参画や議論の充実により議会活動の質的充実が図られている
共 通	⑤ チーム議会で政策形成サイクルを議会運営上のシステムとして確立している

※議会改革部門は躍進賞にも同時エントリーが可能です（応募フォームより選択）。躍進賞の授賞にあたっては、上記③～⑤を次の基準で代替し審査します。

躍 進	③ 応募者が設定する期間において、改革を大きく前進させ取り組みが躍進している
躍 進	④ 世の中に広く紹介したい取り組みになっている
躍 進	⑤ 今後、更なる活動に期待が持てる

④ 政策・まちづくり部門

議員、首長、市民、メディア、民間などあらゆる主体が対象。課題を的確に捉え持続可能な地域を築くため、解決に向けた成果を生み出している優れた取り組みや、新規性や独創性にとんだ優れた取り組みを表彰する。評価にあたっては、既存の枠組みや国の支援に依存するのではなく、地域が主体的、前向きに取り組む姿勢を重視する。

対 象	すべて
授 賞	最優秀賞：1 優秀賞：複数

(審査基準)

共 通	① 地方の分権自立の流れや社会状況に対応した生活者起点の取り組みになっている
共 通	② 地域の将来を描いたビジョンが掲げられている
共 通	③ 世の中に広く紹介したい取り組みになっている
共 通	④ 取り組みの過程において、市民など様々な立場の人々が参画している
共 通	⑤ 審査委員独自の視点による加点

「インターネット投票特別賞」が新設されます！（エントリー必要）

特別賞（インターネット投票特別賞）

「応援したい取り組み」をインターネットによる一般投票で選び、得票上位の取り組みを「インターネット投票特別賞」に決定します（4部門の審査には影響しません）。インターネット投票は、10月上旬の優秀賞発表後に開始します。

対 象	エリア選抜（優秀賞の候補となるもの）の中から選出（ただし4部門での受賞者となった場合は特別賞の対象にはなりません）。
授 賞	インターネット投票特別賞：得票上位の複数

（注意事項）

- 本賞へのエントリーは、応募時に応募フォームで希望した場合に限ります（応募時に希望しない場合は、本賞へのエントリーには不参加となります）。
- エントリーを希望し投票の対象（エリア選抜）となった場合は、投票のために下記のエントリー内容の一部がインターネット上で公開されます。個人情報や著作権・肖像権（ご自身だけでなく、応募書類一式に記載されるものも含め）の取り扱いには十分ご注意ください。

- 応募団体・個人名
- 自治体名（都道府県・市区町村名）
- 応募タイトル
- 取り組み要旨
- 応募内容本文
- 参考URL

※添付資料は公開されません。

応募資料・本文について

【タイトル】 審査委員の目に一番最初に入りやすいかも！？タイトルを工夫してみてください！インターネット投票にエントリーする場合も、タイトルは大事です！

【応募内容本文】 1200字程度という目安があります。この目安は埋めるつもりでエントリー本文を書いてみてください！

【画像や資料】 なくてもOK（任意）ですが、一般的に、PR材料はできるだけ多い方がベターです！枚数制限の中でPRしてみてください！

政治山にマニフェスト大賞関連の記事を掲載しています

鈴木綾子江東区議会議員（マニフェスト大賞実行委員長）の記事抜粋

「日本最大の政策コンテスト」マニフェスト大賞。今年は6月から応募開始！

地方公務員の皆さん!本当にすごい公務員を教えてください!

関連ワード：インターネット投票 マニフェスト大賞 マニフェスト研究所 地方議会 東京江東区 鈴木綾子

マニフェスト大賞の応募が6月からはじまります。マニフェスト大賞は、地方自治体の議会・首長等や地域主権を支える市民等の優れた活動を表彰する日本最大の政策コンテストです。2006年から始まり、今回で19回目を迎えます。

マニフェスト大賞とは？

東京都江東区議会議員の鈴木綾子です。

昨年（第18回）に引き続き、第19回マニフェスト大賞実行委員長を務めさせていただきます。

いよいよ6月1日からマニフェスト大賞の応募期間がはじまります。応募締め切りは7月31日。1ヶ月前倒しとなりました。



マニフェスト大賞2024

本記事では、マニフェスト大賞の応募開始を機に、これまでの歩みや新しい取り組み、応募することのメリットなどを皆様にお伝えしていきます。

マニフェスト大賞は、地方自治体の議会、首長、市民等による優秀な取り組みを表彰・発表するものです。

日頃、注目されることが少ない地方議会・議員、地方政治の良い取り組みに光を当てることで、それらを担う人たちの活力になり、地方から政治を変える原動力となるために2006年に作られました。現在では地方議会、議員、首長のみならず、幅広い年代や立場の市民の皆さんの優れた取り組みの受賞も目立ち、裾野が広がってきています。

マニフェスト大賞は、次回で20回の節目を迎えることとなり、大規模なリニューアルを予定しております。今回（19回）もそれぞれ先駆けて受賞部門の見直しや、「インターネット投票特別賞の創設」など、新たな取り組みもスタートします。

今回も多くの皆様にマニフェスト大賞の存在を知っていただき、優秀な取り組みをご応募していただきたいと思います。



マニフェスト大賞 集合写真

マニフェスト大賞に応募することのメリット

(1) 自分や所属している議会・団体の活動や成果を振り返り、棚卸しする機会になる

地方議員仲間の皆様の多くは、4年ごとの選挙の前に自分自身の政策を振り返り、レポートやホームページなどにまとめたり、有権者への報告を行ったりしていると思います。

また、市民団体などで活動されている方も、定期的に活動報告をさせていただくことでしょ。

マニフェスト大賞の応募を通じ、1年ごとに取り組みをまとめていくことで、自分自身の活動の振り返りにもなり、自分自身の政策実現の過程をレビューすることにもつながります。

私自身は、マニフェスト大賞に個人として2回の受賞歴（第8回・第16回）があります。いずれも日々の議員活動の中で行なっている政策提言や情報発信手段などの取り組み事例を年単位でまとめ、応募したものが受賞につながっています。

（私の受賞事例については、2023年の記事をご覧くださいと嬉しいです）

受賞団体の過去の事例をみても、マニフェスト大賞応募を通じた「活動の棚卸」を繰り返すことで、優秀な取り組みとして認められ、事例が全国に水平展開されていく好循環が広がっていることが実感できます。



次回は、「三浦ひらく事務局長」の予定！

お問い合わせ・ご相談

マニフェスト大賞事務局（早稲田大学マニフェスト研究所内）

★ 電話 03-6709-6739

★ メール mani@maniken.jp

担当：山内・亀井までお問い合わせください。

★ 全国各地の実行委員に相談する

↓ 実行委員一覧をご覧ください ↓

<http://www.local-manifesto.jp/manifestoaward/greeting/member.html>

主 催：マニフェスト大賞実行委員会

実行委員長：鈴木綾子（東京都江東区議会議員）

副実行委員長：山本美和（茨城県議会議員）

岡崎進（神奈川県茅ヶ崎市議会議員）

高橋保（愛媛県西条市議会議員）

福井たかお（福岡県福津市議会議員）

事務局長：三浦ひらく（岡山県津山市議会議員）

ほか全国の自治体議員・市民などで実行委員会を構成



鈴木綾子(HP)

実行委員長／東京都江東区議会議員
[関東エリア]



山本美和(HP)

副委員長・実行委員長代理／茨城県議会議員
[関東エリア]



岡崎進(HP)

副委員長／神奈川県茅ヶ崎市議会議員
[関東エリア]



高橋保

副委員長／愛媛県西条市議会議員
[四国エリア]



福井たかお(HP)

副委員長／福岡県福津市議会議員
[九州・沖縄エリア]



三浦ひらく(HP)

事務局長／岡山県津山市議会議員
[中国エリア]

ご応募お待ちしております！



マニフェスト大賞 集合写真 (第18回)